

The LATEST THEORY

ハイウェイの快速クルーザー、 スポーツ SUV はこう仕立てろ!

ヨーロッパの世界でもアッパーミドル以上の人が一帯頻りに運転するクルマはSUV(スポーツユーティリティビークル)になってきた。性能的にはパワセンジャーカー以上の500ps以上を発生するモデルもそろそろでてきているし、メルセデスSクラス並みの価格帯のものも増えてきている。これからの時代、ハイウェイを飛ばすのはモディファイドSUVが一帯オシャレになる!



01 ロウリングキットを軽A込込のため、第一硬までエアサスで締められた車輪。リアビューが解像するのはマンソリーの直線だ。

■ SPECIFICATIONS - 2011 MANSORY PORSCHE CAYENNE TURBO

WHEEL MANSORY SWISS958-1 F22x100 R22x100
TIRE Continental Conti Contact UHP F255-35R22
R255-35R22
SUSPENSION iD0 Coasting Kit
EXTERIOR MANSORY SWISS958-1 Program for 95T Cayenne (1 Surplus) 2.5x11 (Bumper Over Fenders Carbon Diffuser) R Hatch Panel Carbon/Aero Bonnet Carbon/Head Light Cover Carbon Door Mirror Cover R Spoiler R Side Frame Carbon R Roof Shelf Carbon R Roof Top Carbon
MUFFLER MANSORY Rear Muffler
INTERIOR MANSORY SWISS958 Interior

バンパーとS&Rスカート、フエッダーエクステンション、それにドライカーボンのボンネット、リアウィング、ディフューザー、そのほかドライカーボンのアクセサリーパーツがアレンジされる。日本の1号車ではFバンパーからRスカートにかけてすべてドライカーボンで仕立てられていて「いかにもマンソリー」と言ったインパクトを放つ。ホイールにはマンソリーCS11の22x100をブラックに塗装。ホワイトのアタックラインを入れたカスタム仕様だ。タイヤにはコンチネンタルのクロスコンタクトUHPの295/30R22を履かせた。純正と比べても仕方ないのかもしれないが、ストックのサイズ265/50R18よりタイヤベースで片側3cmも拡大されていることになるから、4WDを利用してグリップ力もバツグン。高速道路にワインディングにどんなステージでも猛烈な速さを見せつける。マンソリーが誇るハイウェイクルーザー。登場した時点ですでに、958カイエンがスクラム&コンプリートの決定版となった!

モスクワでのVIP向けワールドプレミアからわずか1ヶ月、日本でもマンソリースイス958カイエンの1号車が完成し、東京オートサロンでデビューを果たした。ベースは当然ながらカイエンターボ。ストックの時点でMax500psを叩き出す強型SUVなのに、マンソリースイスの手によって猛烈で魅力的なスタイリングに仕立て上げられた。そのエアロプログラムはすべてドライカーボンを使ったワイドボディ。マンソリーでは先ごろフルカーボンボディのアストンマーチンを製作。ドライカーボン製作技術の高さを世界中にアピールしている。ドライカーボン製パーツは取り付ける際の修正がほとんど効かないため、高い製造精度とコストがかかってしまう。そういう理由で、マンソリースイスを958と同じ部品の高級ミニチューナーしか採用できないのだ。もちろん見た目も複雑であることからコピーは事実上困難。ブランドイメージが損なわれる危険性も少ない。ポルシェ911にも似た新型958カイエンには、F

PERFORMANCE ART

カーボンでワイドボディを作る贅沢

MANSORY SWISS958 CAYENNE TURBO

CALL 03-5948-8000 (U.S.A. 1-877-253-8888) (FAX) 03-5948-8001 (E-MAIL) info@mansory.com (TEL) 04-8553-2222 (WWW) www.mansory.com



01 フロントマスクからサイドミラーに渡るフレッドファンダー。カーボンのアレンジが施される。ホイールはマンソリーの専用設計。フロントブリックはホイールのアタックラインでカスタム。02 ボンネットはドライカーボン製。またヘッドライトリムなどアドオンパーツは強力なドライカーボンとして重量への配慮は万全。03 リア側のフレッドファンダー後方にはダクトが設けられ、リアバンパーのデザインとの流れがわかる。このあたりのデザインはさすが。04 サイドミラーはカーボン製のもののようにも見える。05 マフラーは直線4本出しでチップレスのエアフロー。パターニングなど同じく高性能がコンセプトの部品は、流体力学のカンニングフューザーが施される。06 ノーズスポイラーもドライカーボン製。デザインも凝っている。07 タイヤはコンチネンタルのクロスコンタクトUHP。フロント側にも295/30という猛烈なサイズがマウントされる。08 ボンネット裏をのぞく。ドライカーボンが施される。09 新型カイエンターボのコアゼット。コアゼットはマンソリースイス製だ。

